



平成29年度

教育研究所だより

No.13



「人おこし」

平成29年9月25日発信

〒987-0511 登米市迫町佐沼字袋向150-1

Tel 0220-22-8029(相談専用22-8125) FAX 22-9114

HPアドレス <http://www.tome-avc.jp/rese/>

オーストラリアのコアラが従来より水をたくさんの飲むようになったそうです。本来は一日の大半をユーカリの木の上で過ごすのですが、温暖化でユーカリの葉の水分が少なくなり乾燥してきたため、水を飲むようになったということです。地球温暖化の影響がコアラの生活にも及んでいるようです。

幼稚園、小・中学校初任者研修Ⅱ

9月19日(火)第2回目の市教委主催初任者研修が行われました。今回は、ナックルフォア体験、西部学校給食センター視察、登米市消防本部・防災センター視察及び体験という内容でした。



<ナックルフォアの体験>

教育委員会生涯学習課の千葉さんから、ボート競技の魅力、これからの体験内容などの説明をいただき、その後、実際に長沼ボート場に行き、ナックルフォアの体験をしました。5人ずつ4つのグループに分かれての体験でした。コックスの声かけのもと、4人のこぎ手がぴったり合ったとき船は調子よく進みます。

「一艇ありて一人なし」という言葉があるそうで、こぎ手(クルー)はバラバラの個人ではなく一心同体だ」という意味だそうです。

どのグループも上手に進むことができ、時間内に無事戻ってきました。



<所長の石川さん>

視察に伺ったときはちょうど洗浄の時間でした。施設の様子を見た後、所長の石川さんから、西部学校給食センターの概要についてお話がありました。

西部学校給食センターでは20の幼稚園・小・中学校に約3,400食の給食を提供しているということでした。子どもたちの心身の健やかな成長を願って、栄養のバランスを考えたものを提供しているとのことでした。またアレルギー対応給食の専用調理室も備え、約40食の対応食をつくっているそうです。

学校給食に地域食材を利用することで、農業や地域食材への関心を高め、望ましい食習慣への理解を深められるよう努めているとのことでした。



<地震体験 震度7>

はじめに、署員の木戸浦さんから防災センターの概要について説明がありました。その後、煙体験をしました。実際の火事では、火災によって亡くなった方の90%ほどが煙(有毒ガス)によるものだったということでした。実際に体験してみると、入り口から出口まで本当に前が見えず、誘導灯がなければ出口までたどり着けなかったかもしれません。

地震体験では、震度7の設定で体験しました。周りで見えていても、本当に怖くなる思いでした。また、東日本大震災の時と同じ揺れも体験しました。あのときのことを思い出してしまうほどリアルな揺れでした。そのほか、建物の免震構造や消防車などを見学し、第2回目の初任者研修を終えました。

この研修を通して、初任の先生方は貴重な体験をしましたし、同時に初任者同士の横のつながりも深まったようでした。

<参加者の感想から>

◆研修を通して、同じ職場をチームと捉え、連携しながら物事を進めていくことによって、何事もスムーズに行うことができ、また、各諸問題に対して未然に防止することができるということを学んだ。

◆ナックルフォアを体験でき、地域にある自然を子どもたちの心の学びに役立てることを考えることができた。自分自身が楽しみ、達成感や協力して一つのことを行う喜びを味わうことができたので、子どもたちにも是非体験させてみたいと思った。

◆給食センターや防災センターの見学では、子どもたちにどう教えるか考えながら体験等を行うことができた。全ての活動で、自分が教える側に立ったときどうするかを考えながらできた。

◆(ナックルフォアの体験を通して)教室内や学校全体でも一人一人の役割を理解し、果たすこと、思いやることが大事だと考えさせられた。給食センターや防災センターでは貴重な見学・体験ができた。子どもたちにも、地域の中に様々な方々が働いていること、そして、自分たちもいつかその役割を果たさないといけないことを一緒に学習していきたいと思った。